

日本キリスト教会大阪北教会

2017年2月5日 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ヨハネによる福音書15：26～16：4

26 わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。27 あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである。16:1 これらのことを話したのは、あなたがたをつまずかせないためである。2 人々はあなたがたを会堂から追放するだろう。しかも、あなたがたを殺す者が皆、自分は神に奉仕していると考える時が来る。3 彼らがこういうことをするのは、父をもわたしをも知らないからである。4 しかし、これらのことを話したのは、その時が来たときに、わたしが語ったということをおあなたがたに思い出させるためである。」

説教 『キリストを証しする真理の御霊』

◆先週も少し触れましたモーツァルトの『アヴェ・ヴェルム・コルプス』ですが、その歌詞は、カトリック教会における「聖体拝領」、即ちわたしたちの聖餐式における「祈り」なのですが、その祈りにおいて、人生を「死の試練」という言葉で表現しております。人生の終わりがそうであるばかりか、人生途上の刻々が、正に「死の試練」にまわりつかれているのが、わたしたちの人生であります。しかしその試練の人生において、一点の支えがあれば、人は持ちこたえて生きる事ができます。モーツァルトの『アヴェ・ヴェルム・コルプス』の最後の歌詞は「死の試練」で終わっているのですが、この祈り全体は、「おお、優しきイエスよ、おお、憐れみ深きイエスよ、おお、マリアの御子イエスよ、アーメン」で結ばれています。つまり人生は全体としても、また折々においても、死の陰に覆われているのですが、そのような試練のなかで、「憐れみ深き主イエスよ」と呼びかけることが許されているエイルのが、私たちキリスト者が与っている信仰の幸いであります。その歌詞の冒頭は、「誉れあれ！ 処女マリアよりお生まれになられた真の御体よ」始まるのです。正に、「処女降誕」なのです。どういうことかと言いますと、キリストの降誕、そしてその存在は「奇跡」だと言っているのですね。主イエス・キリストは数々の奇跡を行なわれました。それだけではありません。このイエス・キリストという御方の存在そのものが奇跡なのです。その事を心から信じられるのも奇跡なのです。

◆わたしたちは「死の試練」の只中にあっても憐れみ深き主に呼びかけ、祈ることができるのです。わたしたちはそのことを改めて感謝したいと思います。それで、

私はこのような人生の底知れない危機からさえ、呼びかけることを知っている民、それが神の民、イスラエルの信仰なのだ、正にこの幸いを歌っているのが、あの詩編23篇だと、今更のように私は思い起こしました。詩篇の23篇を口語訳で読んでみたいと思います。「主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない。主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。主はわたしの魂をいきかえらせ、御名のためにわたしを正しい道に導かれる。たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわざを恐れませんが、あなたがわたしと共におられるからです。あなたのむちと、あなたのつえはわたしを慰めます。あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け、わたしのこうべに油をそそがれる。わたしの杯はあふれます。わたしの生きていくかぎりは、必ず恵みといつくしみとが伴うでしょう。わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう。」この23篇はわたしたちは暗唱しているものです。この23篇はまさに万人の詩編として愛唱されているのでありますが、この23篇の作者は、それこそ人生の死の試練を越えて来た人に違いないと思います。ここに表明されている信仰は、いかなる試練の時にも、羊のためには命をも惜しまないところの良い羊飼いであられる神が、主イエス・キリストが共にいまして、支えてくださり、全てを益に変えてくださるという確信、信念、信仰であります。このようにこの23篇を読むのがクリスチャンの信仰であります。そしてこの信仰の確信は私たち自身に根拠があるのではなくて、キリストの真実、揺るがない愛、それこそ神のAmazing Grace、驚くべき恵みにのみ、依存しております。

◆そのような次第でありまして、神様が私たちに手を差し伸べてくださるのは、私たちがまともな者であるからではなくて、まさに死を己の罪の罰として受けねばならないような者に、神様は手を差し伸べてくださって、そしてわたしたちのために、主は十字架で苦しみを受け、身代わりになってくださいました、と歌っているのですね、「アヴェ・ヴェルム・コルプス」は。そのような次第ですから、神様の恵み、イエス様の真実というのは、決して気まぐれではなくして、一回限りのその時だけのものではなくて、一事が万事、それは終始貫かれるところの真実であります。わたしたちはこの信仰一つで人生を生きることができます。わたし達は、「死の試練」と言われるところの人生がこのような主の支えと導きのなかにあります。私の生きていく限り、必ず恵みと慈しみが伴い、わたしはとこしえに主の宮に住むことは、神様によって、死の試練から救い出された者は、その経験を通して、とこしえに主の宮、主のご臨在される主の宮に住む。自分がいる所がまさに主の宮なのですね。

神が共におられないような時と所は一つもない。その時、そう思えなくても、見ないで信じる。そして信じて裏切られることはない。これが私達の信仰の確信であります。恐らく、イスラエルの民は、この詩編 23 篇を四六時中、口ずさみ、歌ったことでしょう。私達は、神の御恩寵の真っ只中に、今日もある、昨日もあった、明日もある、永久にあるのだ、という事を信じて、日々を過ごしたと思います。

◆ところで今日の聖書の箇所は、先日来読んでいるヨハネ伝であります。キリストの弟子たちが遭遇している試練は容易なものではありません。前回読んだ 15 章 18 節のところには、「世があなたがたを憎むなら、あなたがたを憎む前にわたしを憎んでいたことを覚えなさい」と、こういうふうに主イエスは言われました。そして今日の 16 章 2 節では「人々はあなたがたを会堂から追放するだろう。しかもあなたがたを殺す者が皆、自分は神に奉仕していると考える時が来る」とあります。このような状況に弟子たちは落ちることをイエス様は予告しておられます。そしてその時が来た時にわたしがそのことを語ったのだということをあなたがたが思い起こして、その試練に耐えるように、いまわたしは語るのだと言っておられます。これが当時のイエス様の弟子たちのおかれた状況であります。私達が遭遇する試練は、表面的には、一つとして同じ姿をとることはありません。各人各様ですが、主イエス・キリストに結ばれる幸いに与っている者は、主イエス・キリストが歩まれた道に従って歩むのであります。ですから、主の試練は、正に主を信じる者にとっては必然であって、免れるということはないのです。そして弟子たちは免れませんでした。そして死の試練の恐怖のなかにあった時に、復活の主イエス・キリストが現れなされて語られたお言葉が、昨年、今年と私達の教会に与えられた主題聖句であります。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」このような次第でありますので、わたしたちは、それこそ死の試練を免れることはありませんし、それはさまざまな形でわたしたちは負うて行かなければなりません。しかし、如何なる時にも、「主が共にいます」ということは決して崩れないのです。「たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわざを恐れませぬ。あなたがわたしと共におられるからです。」

◆さて、今日の 26～27 節にこうあります。「わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである」。ここに「弁護者」「真理の御霊」とい

う表現があります。既に、14章15節で主はこういわれました。「15 あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る 16 わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。17 この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。18 わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。」因みに口語訳では「弁護者」は「助け主」と訳され、「真理の御霊」と訳されていました。聖霊は旧約聖書では「ルーアツハ」、新約聖書では「プニュウマ」という言葉で、いずれも、空気・風・息とも訳される言葉です。わたしたちを包み、わたしたちの内に入り来り、命の息を吹き入れてくださる御方のことです。「弁護者」は「傍に呼ぶ」という語の派生語で、私たちがいかなる時にも傍に呼んで、傍に来り給うて、慰め、励まして下さる御方の事です。正に「助け主」です。

◆聖霊は神の霊です。真理の御霊です。キリストの真実を証しする御方です。15章26節以下にこうあります。「わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである。」「証しをする」ということは、共にいて経験を共有して、はじめて可能です。そして御霊の証しと弟子達の証しは、同一です。皆さんはイエス様についてどのような証しをなさいますか。今日は日曜学校で讃美歌493番を歌いました。「慈しみ深い友なるイエスは」です。私達の思いを代弁してくれますね。私たちの弁護者・助け主・良き羊飼いは、私たちの為に苦しみ、わたしたちの全ての負い目・負債・罪責を代って負って下さる方です。命がけの「弁護者」です。主を信じ、その御後に従ってまいりましょう。

◆お祈りいたします。

憐み深い主イエス・キリストの父なる神様。

今日まで御憐みに支えられて歩得ましたことを感謝いたします。主よ、どうか今このような時にも、正に死の試練のただ中にある者を顧み、お守り下さい。あなたがたかえりみ、支え、導き、命の道へと帰らせてください。この祈り、イエス様の御名を通し御前にお捧げいたします。アーメン。